

1983年



社会科学の分野での日中交流が盛んになる中、馬洪院長を団長とする中国社会科学院代表団が来日。井上靖会長(右二)、圓城寺次郎顧問(左二)、都留重人常任理事(左一)に訪日の成果を語る馬洪院長(右一)——1983年5月22日 東京

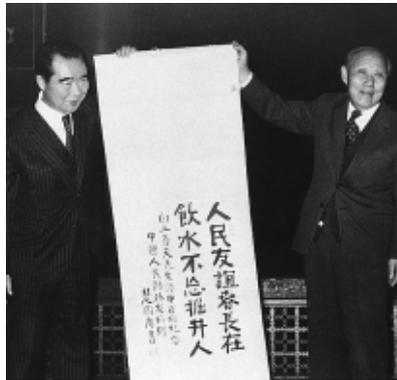
北京人民芸術劇院「茶館」(作・老舍)の訪日公演が、中国話劇(新劇)の初来日として成功を収め、以後の中国話劇訪日公演に道を開くこととなる。平和友好条約締結五周年。廖承志中日友好協会会長が急逝、日中友好諸団体はもとより日本各界に衝撃を与えた。NHKで、後に中国でも評判になる「おしん」放映開始。東京での原水禁世界大会国際会議に中国代表が十八年ぶりに参加。胡耀邦総書記が来日。「中日友好二十一世紀委員会」設立に合意。



日本作家代表団が訪中 水上勉団長(左三)、黒井千次(左二)、井出孫六(左一)の諸氏は、老舍夫人の胡絮青氏(右一)を自宅に訪ね、老舍氏の思い出を語りあった

〔八三年の主な交流〕
◎1月 井上靖氏一行(井上靖、井上ふみ、白土吾夫、白土英子、佐藤純子、井上卓也、浦城義明の諸氏)年末年始を北京で過ごす。野村狂言団(野村万作団長)訪中、北京と上海で公演。「日中書道芸術交流展」東京展(池袋・西武美術館)開催、全日本書道連盟、当協会、中国書法家協会、中国文学芸術界連合会の主催、開幕式に中国書道家代表団(謝冰岩団長、王景芬、張源、李平の諸氏)が出席。
◎3月 中国人民対外友好協会代表団(夏衍団長、宋一平、楊拯民、張光儒、姜徳明、黄世明、沈且華、張和平、王慶英の諸氏)来日。中国文学芸術界連合会代表団(趙尋団長、黎本初、董啓翔、車進、雷雨声、王紀徳、王玉琢の諸氏)来日。水科篤郎京都大学教授(当

北京で白土吾夫専務理事の訪中百回を記念するレセプションが開かれた。楚図南氏揮毫の掛軸を贈る王炳南対外友協会会長(右)。井上靖会長、東山魁夷、團伊玖磨両代表理事らも出席し、中国各界二百名の参会者とともに、白土氏の功績をたたえた



協会常任理事)三和子夫妻訪中。夏籟中国社会科学院副院長来日、東京などで講演会。中国陸上競技選手団(黄健団長)来日。「日中書道芸術交流展」北京展(中国美術館)開催、開幕式に日本書道家代表団(梅舒適団長、浅見寛洞副団長、田中凍雲秘書長、青木香流、飯島太久磨、中野暁、稲田和子、佐藤明の諸氏)が出席。
◎4月 日本画家の加山又造・みどり夫妻が訪中。正力亨巨人軍オーナーが峰子夫人、原孝文、高橋茂男、中野暁の諸氏を伴い訪中。

◎5月 中国社会科学院代表団(馬洪団長・院長、向培祖、嚴家其、盛愉、李泊溪、吳凱泰、彭晋璋の諸氏)来日、当協会と日中人文社会科学交流協会の共同招請。日本「中国古陶磁研究者」友好訪中団(三上次男団長、山崎一雄、佐久間重男、桜井清彦、宇都木章、北野耕平、田村晃一の諸氏)訪中。日本鳥類生態研究者代表団(正富宏之団長、市田則孝、桂千恵子の諸氏)訪中。
◎6月 井上靖会長が「人民中国」創刊三十周年慶祝会出席のため訪中。白土吾夫、横川健両氏が同行。金原出版医学友好代表団(金原秀雄団長、佐藤祥子秘書、越川昭三、石井淳、長沢俊彦、赤岡家雄、五十嵐一弘、田村康祐、永井祥道、吉川元章の諸氏)訪中。廖承志全人代常務委副委員長・中日友好協会会長が逝去、北京での葬儀に日中文化交流協会弔問団(井上靖会長、宮川寅雄理事長、中島京子、千田是也、杉村春子、圓城寺次郎、白土吾夫、有吉佐和子、佐藤純子の諸氏)が参列。
◎7月 中国登山協会代表団(史占春団長)来日。
◎8月 日本美術家訪中団(下保昭団長、村木明、石川義、今井守彦、國府克、重岡良子、伊藤由美子、小暮貴代の諸氏)訪中。日本少年野球選手団(井上愿彦団長)訪中。日本「中国古窯址研究者」訪中団(圓城寺次郎団長、小堀宗慶副団長、林屋晴三、三浦小平一、樂吉左衛門、木村美智子の諸氏)訪中。
◎9月 日本作家代表団(水上勉団長、中野孝次、井出孫六、黒井千次、宮本

一九八三年十二月十二日 北京飯店



音楽グループの「オフコース」が中国を訪問。譚冰若教授(右一)らの案内で上海音楽学院を参観する高宮昇団長(右二)と小田和正氏(左二)らオフコースのメンバー
——1983年11月11日



「葵丘会議」の地・葵丘で熱心に取材メモを取る井上靖会長(右)と同行の黄世明対外友協副会長(左)、蔡流海河南省対外友協会会長
——1983年12月16日



老舎の名作話劇「茶館」が、北京人民芸術劇院訪日公演団により上演され、円熟した舞台は各地で大好評を博した。初日の終演後、于是之氏、藍天野氏ら出演者に公演の成功を祝う千田是也代表理事(手前左一)
——1983年9月12日 東京・サンシャイン劇場

●10月「中国内蒙古北方騎馬民族文物展」東京・日本橋高島屋で開幕。当協会と日本経済新聞社主催、開幕式に同展代表団(文浩団長、金楓、阿日貢、李逸友、林叔猛の諸氏)出席。日本体育友好代表団(後藤淳団長、池田恒雄、今井紹雄、野坂浩、白井一馬、金子慶之助、相場宏、加藤菊造、米山広作、中野暁の諸氏)訪中。日本出版印刷代表団(相賀徹夫団長・小学館社長、鈴木和夫凸版印刷社長、高橋武夫大日本印刷専務、今村廣成成社社長、本吉敏

輝、佐藤純子の諸氏)訪中。中国話劇「茶館」訪日公演(夏淳団長、于是之、藍天野、鄭榕の諸氏ら七十名)、東京、京都、大阪で公演。日本「中国曲芸鑑賞」訪中団(岡本文弥団長)訪中。

●11月 上海越劇院訪日公演団(呉琛団長)五十三名来日、当協会と中部日本放送の招請、東京、名古屋など全国十二都市で越劇「紅樓夢」を公演。日本演劇家代表団(杉村春子団長、鈴木光枝、河内桃子、大塚国夫、菊地勇一、稲野和子、渡辺浩子、原信之の諸氏)訪中。日本経済界代表団(成田浩団長・電力中央研究所理事長、服部禮次郎服部セイコー社長、生島實東京瓦斯副社長、安藤肇住友金属鉱山副社長、上野光平流通産業研究所理事長、木暮剛平電通専務取締役、松永有介経済同友会参事、木村美智子の諸氏)訪中。日本美術家訪中団(高山辰雄団長、松尾敏男副団長、加倉井和夫、岩澤重夫、村木明、大矢紀、市野龍起、小暮貴代の諸氏)訪中。中国音楽家代表団(孫慎団長、時樂濛副団長、丁鳴、胡登跳、李

男婦人画報社社長、新田敏新潮社常務佐藤祥子の諸氏)訪中。日本「民法・環境法学者」訪中団(加藤一郎団長、森島昭夫、野村好弘、浅野直人、椎木緑司、加藤美穂子、潮海一雄、紋谷暢男、伊藤高義、稼勢政夫、新美育文、戸倉英美、小賀野晶一の諸氏)訪中。日本刻字協会訪中団(大久保翠洞団長)訪中。登山家の松田宏也氏一行訪中。日本「義肢・補装具技術」訪中団(浅井一郎団長)。日中文化交流協会代表団(宮川寅雄団長、宮川チトセ、渡辺義雄、白土吾夫、高宮昇、田村高廣、佐藤純子の諸氏、「オフコース」訪中団(小田和正、清水仁、大間仁世、松尾一彦、西沢一彦の諸氏)訪中。

毅之、王耀華の諸氏)来日。胡耀邦総書記来日、日中友好六団体など主催の「歓迎青年のつどい」で記念講演(東京、NHKホール)。

●12月 日中文化交流協会代表団(井上靖会長、井上ふみ、東山魁夷、東山すみ、團伊玖磨、團和子、白土吾夫、夏堀正元、佐藤純子の諸氏)訪中、中国人民対外友好協会は北京で白土専務理事訪中百回祝賀レセプションを開催。熊本交響楽団訪中団(小堀富夫団長・熊本放送常務)百二十六名訪中、上海、桂林、南寧で演奏会。

時には江戸っ子ことばをまじえ、日本人より巧みな日本語を使いこなす中共中央政治局委員・全人代常務委副委員長・中日友協会長の廖承志氏が逝去、享年七十五歳。日本にとってもかけがえのない人だった。一九五八年に初めて訪中した白土吾夫氏はその廖氏に、親しみを込めて「ぼうや」と呼ばれたという。白土氏はこの年、年末の当協会代表団の一員として百回目の訪中を果たす。東京から北京まで通常二泊三日かかった政治的遠距離の時代から、朝東京を発つて昼食を北京でという時代まで、文化交流一筋での訪中百回は、記念碑的意味がある。北京での祝賀会には中国の文化芸術、学術、体育、出版、報道など各界の代表二百名が出席、それは取りも直さず白土氏の長年の努力によって築かれた交流の人脈であり、協会の貴重な宝である。(九十九)